

ISO14001:2015 6.1.1 潜在的な緊急事態の意味

ISO14001:2015 箇条 6.1.1

下段

組織は、環境マネジメントシステムの適用範囲の中で、環境影響を与える可能性のあるものを含め、潜在的な緊急事態を決定しなければならない。

ここでの潜在的な環境影響の意味について考察します。

附属書 A.6.1.1 では、「緊急事態は、顕在した又は潜在的な結果を防止又は緩和するために特定の力量、資源又はプロセスの緊急の適用を必要とする、計画していない又は予期しない事象である。」とある。

また、6.1.2 環境側面では、「非通常の状況及び合理的に予見できる緊急事態」を考慮する、とある。

附属書 A.6.1.1 では、

緊急事態は、顕在した又は潜在的な結果を防止又は緩和するために特定の力量、資源又はプロセスの緊急の適用を必要とする、計画していない又は予期しない事象である。

緊急事態は、有害な環境影響又は組織に対するその他の影響をもたらす可能性がある。

緊急事態（例えば、火災、化学物質の漏えい、悪天候）を決定するとき、組織は、次の事項を考慮することが望ましい。

- ・ 現場ハザードの性質（例えば、可燃性液体、貯蔵タンク、圧縮ガス）
- ・ 緊急事態の最も起こりやすい種類及び規模
- ・ 近接した施設（例えば、プラント、道路、鉄道）で緊急事態が発生する可能性

また、6.1.2 環境側面では、「非通常の状況及び合理的に予見できる緊急事態」を考慮する、とある。

潜在的な環境影響の原文は、potential emergency situation である。

Potential という形容詞の意味は 「潜在的な」「発生の可能性のある」の二つの意味がある。

以上を総合すると、6.1.1 は

「組織は、環境マネジメントシステムの適用範囲の中で、環境影響を与える可能性のあるものを含め、発生の可能性のある緊急事態を決定しなければならない。」

と理解するのが適切と思います。

なお発生の可能性のある緊急事態には、有害な環境影響もの、又は組織に対するその他の影響をもたらす可能性があるものがある。

有害な環境影響をもたらす可能性のある緊急事態は、6.1.2項「非通常の状況及び合理的に予見できる緊急事態」で決定している。

6.1.1項では、組織に対するその他の影響をもたらす可能性があるものがある緊急事態を決定すればよい。

例えば

- ・ 環境法令改正の情報入手がされず法令違反の訴訟を受けた。
- ・ 製品の環境性能に関する誤表示の表示が発生した。
- ・ 利害関係者の間違った環境情報を発信した。

といったことが考えられる。

2017年4月1日
西村経営支援事務所
西村三郎